

2016年5月10日

日本共産党埼玉県委員会

「ご近所のみなさん。日本共産党です。

みなさん、憲法違反の安保法制Ⅱ戦争法が施行され、改憲を叫ぶ安倍首相。この夏の参議院選挙は、憲法を踏みこじって戦争への道をすすむのか、それとも、9条を守り、個人を尊重する政治をめざすのか――日本の命運がかかっています。変えるべきは憲法ではなく、憲法をないがしろにしてきた自民党政治ではないでしょうか。

みなさん、安倍暴走政治にストップをかけ、憲法が生きる平和な日本へ、日本共産党とこいっしょに新しい政治を切り開こうではありませんか。

みなさん、いま、憲法違反の安保法制の廃止へ、野党の共闘がすすみ、主権者が政治を動かす新しい時代が生まれつつあります。

共産、民進、社民、生活の野党4党が、「戦争法廃止」「立憲主義回復」の一点で選挙協力で合意し、自民・公明、おおさか維新を少数派に追い込む、「野党共闘」がすすんでいます。これまでに、参院選一人区の21選挙区で合意が成立(10日現在)しSEALDs(シールズ)やママの会などの市民運動が野党の背中をおし、こうした「選挙協力」をつくりだす原動力になっています。

みなさん、参院選挙は、野党共闘の前進で安倍自公政権を倒し、「政治を変えるチャンス」です。これまでと違い、今度の選挙、「自公勢力」対「野党プラス市民」の対決になっています。多くのマスコミも、野党共闘への共産党の努力などに注目しています。野党が結束し、市民運動の方がたと共同して力をつくせば、参議院で与野党逆転が実現できます。日本共産党は、野党勝利に全力を尽くします。安倍政権と対決し、新しい政治をひらくもっとも確かな力Ⅱ日本共産党を大きくしてください。

いま、戦後初めて、自衛隊が「殺し、殺される」危険が生まれています。

これまで、戦後70年、自衛隊から一人の戦死者も出さず、一人の外国人も殺さなかった日本。安保法制で「海外での武力行使」を認め、後戻りできない道にふみだそうとしています。自衛隊が派遣されている南スーダンには、政府軍が国連R2S0を襲撃するなど内戦状態です。国連も、「武力紛争が続いている」と報告する危険な地域です。そんなところで、武器を使うことは、憲法が禁じる武力行使そのものではありませんか。自衛隊員が「殺し、殺される」危険に。ひとたび相手の少年兵や民間人の命を奪ってしまったら、もう取り返しはつきません。

戦争法は、いまずく廃止するしかありません。

みなさん、日本共産党は、憲法違反の戦争法を廃止し、立憲主義を取り戻すために、野党共闘の前進とともに日本共産党の比例での躍進、定数3の埼玉では、伊藤岳党派民運動委員長を先頭に、自民・公明を少数派に追い込むために、全力をあげています。新しい政治をひらく確かな力Ⅱ日本共産党を大きくしてください。

最後に、日本共産党と伊藤岳党派民運動委員長へのご支援、そして、日本共産党の「しんぶん赤旗」のご購読をお願いし、訴えを終わらせていただきます。ありがとうございました。

以上